

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400477		
法人名	有限会社 しらゆり		
事業所名	グループホームしおさい 風の詩		
所在地	いわき市久之浜町西2丁目7-8		
自己評価作成日	平成27年2月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成27年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に寄り添い、共に生活している意識で支援に取り組んでいる。
 小規模事業所ならではのきめ細かいサービスで、個々のニーズに応えながら信頼関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、職員の要望・意見を取り入れ、働きやすい環境を整え、利用者がその人らしく暮らせるよう取り組んでいる。
 市町村・地域の交流に積極的に働きかけ、研修の情報・地区の避難訓練・地域の行事に参加するなど、職員の質の向上・利用者が安全で安心して生活できるう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	確認のために、出勤時に理念を確認している。	職員一人ひとりが出勤時に意識づけ共有し、日々のケアにつなげている。地域密着型サービスの意義を理解し、わかりやすい理念を掲げ掘り下げながらケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の行事に参加協力をしている。 また、近所の方のボランティアなどもあり、交流の機会がある。	地域の防災訓練・コスモス祭りに参加し、紙芝居のボランティアを受け入れ、近隣の会社が雪かきやレクリエーションの相談をしてくるなど、地域の方と接する機会を作り交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や入居者の家族からの介護についての相談等、適切なアドバイスができるよう配慮している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告について幅広く意見やアドバイスをもらい、実践につなげている。	地域全体の防災訓練の中で避難経路について話し合われ、中学校から小学校へ、避難困難な方は車で避難するなどの活発な話し合いが行われている。地域ケア会議の内容について情報をいただき、行政の方が説明にきている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議には必ず出席して頂き、その他もコミュニケーションを密にしている。	日ごろから事業所と情報を交換し提供している。入居者の要請や相談を受けるなど、連携が取れている。認知症のキャラバンメイトの研修の情報を提供してもらい、参加するよう勧められている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、出入り口の施錠はせず、各居室の窓も自由に開閉している。 また、気が付かないうちに拘束につながる行為をしていないか、話し合いをしている。	管理者は、身体拘束はしない事を職員に意識づけしている。言葉づかいに気をつけ、職員同士で気づいた事は話し合い、言葉の拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファランス等で勉強する機会を設け、常に意識しながらケアにあたれるようにしている。 また、入浴時のボディチェックもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の仕組みを理解し、状況に応じてアドバイスできるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に十分に説明をし、理解同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望箱を設けて、遠慮なく苦情も含め要望が出せるようにしている。また、面会に来られたご家族とも十分なコミュニケーションを図り、ご意見をいただけるよう配慮している。	家族は訪問時に直接職員に、何でも話してくれ、受診等のお願いもしやすい雰囲気になっている。家族からの相談で、事業所では解決出来ない事に関しては、市の担当者を交え話し合いをしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	夜勤時などにゆっくりと話せる時間をつくって、意見を聞くようにしている。	管理者は、職員に気持ち良く働いて貰いたいという思いを常に持ち、休憩時間等に職員全体で話し合える場を設けている。管理者は職員の心境変化に気づいた時、個別に話し合う事で職員の思いを解決している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	役職や責任ある仕事を任せることで、手当として支給し またスキルアップのための環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に関する助成金を設けている。 また、外部の研修会等も参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の介護事業者との情報交換も積極的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人に直接面会し、じっくりとお話を伺い、いろいろな提案をしながら信頼関係を築けるよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の負担を少しでも軽減できるよう、いろいろな提案をしながら信頼関係を築けるよう対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家庭を訪問し、環境も含め現状を把握し、本人や家族の希望にそったサービスの提供ができるかどうか十分に話し合う。また、情報の提供にも努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、できる範囲での協力を求め、役割を持つことで共に助け合いながら生活している意識を持てるように配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や行事への参加に協力してもらい、共に支えあう立場を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や友人の面会など、ゆっくりと過ごせるよう配慮している。予約制で一緒に食事も召し上がってもらっている。	地域で開催しているふれあい会に参加し、お茶のみをするなど、馴染みの関係が出来ている。行きつけの接骨院や美容室に職員が同行し、帰りは店の人が送ってくれる等、継続的な交流を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でも助け合えるような関係を導いている。危険が伴わない程度での見守りをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、時折訪問や連絡をとり、ご家族へのアドバイスなどもさせてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の生活歴や環境など十分に理解し、介護計画に取り入れている。	思いを伝えにくい利用者には、日常的に一人ひとりの顔色や状態を見て声かけし、思いや意向の把握につなげている。元気の無い利用者には、個別に話しをする事で、落ち着きや元気を取り戻してもらっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族または以前利用されていた介護サービス等と連絡を密にし、どの様な環境で生活されていたのか十分に理解し、今後の介護計画につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が常に寄り添うことで、一人ひとりのペースをつかみ、無理強いせずリラックスして過ごせるよう配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファランス等で一人ひとりについて十分に話し合い、またモニタリングを通して計画の変更等につなげている。	家族や利用者から要望を聴いたり、利用者の状態によっては、医療関係者と話し合い、その人らしく過ごせる様、介護計画に反映させている。管理者は、思いの伝えにくい本人と同じ体験をし、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記録の仕方など、書きやすく分かりやすくなるよう工夫している。また、カンファランス時に情報の共有が十分かどうか確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の負担を軽減できるよう取り組んでいる。病院付添や買い物代行等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や活動にも積極的に取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通常は往診で対応しているが、治療方針や服薬が変更になるときは、本人や家族に説明し同意を得てから治療にあたってもらっている。	希望するかかりつけ医や、協力医療機関を受診する方もいる。家族が同行できない場合は、職員が身体状況の記録を持参し、安心して受診できるようにしている。緊急時は、協力医療機関がすぐ対応して適切な医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診受診の際、適切に医師に状態を伝えられるよう、前もって準備している。医療機関との連絡記録を記入し、職員同士の情報の共有に役立っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関に任せではいるが、どのような状況にも対応できるよう、医療機関との関係を密にしていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族が不安にならないよう、機能低下や病状悪化に伴い、当事業所では対応できなくなった場合、またはそうなる可能性がある段階で、家族との連絡を密にし、なるべく希望に添った方法での対策を検討している。	入居時に、重度化や終末期について説明して同意を得ている。重度化した場合は、家族や医療機関と連携を取り、十分な対応ができるようにしている。職員は入院中の方を訪ね話をするなど寄り添っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や訓練を実施している。 職員全員が普通救命講習修了書を取得している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所内の訓練だけでなく、地区の防災訓練も参加している。	消防署の協力を経て、地域の方も参加し定期的に行っている。職員は火災報知器の使い方や、AEDの講習を受け実演し、見てもらい訓練している。台所の火の近くから、消火器を離して設置するなどアドバイスをいただいている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にも掲げられているが、常に人生の先輩として敬い、慈愛の心を持ってケアにあたっている。	一人ひとりに寄り添い、得意なところ褒めて皆さんに伝え、個性を大切にしている。プライバシーを損ねるような、大きな声で話をする方には居室で話をするなど対応している。利用者の呼び方を家族に相談し、状態を見ながら変えたりしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	さまざまな場面で選択の機会を持てるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々特別な事をするのではなく、～しようと言う言葉を引き出せるように環境の整備に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問により美容サービスを置けている。 職員とつしよにマニキュアなども楽しんでる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることは積極的に参加してもらっている。 また利用者の希望を取り入れ献立を作ったり、時には変更をしている。	旬の食材を取り入れ、好みや苦手なものを踏まえ、メニューを工夫している。利用者の身体の状態に合わせ、調理方法を変えている。目でも楽しんで食欲が高められるよう、食器や盛り付けの色彩を考え、一日の大切な活動のひとつにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取は常に記録に残し、足りない分を補えるようにしている。また摂取しやすいように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、居室にて口腔ケアをしている。 定期的に歯科医の受診もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意が鈍くなっても、トイレ誘導により失禁を減らすよう取り組んでいる。状態によりカバータイプオムツ使用の人もリハパン使用に切り替えたり、柔軟に対応できるようにしている。また職員間で何が最適かを話し合っている。	排泄チェック表をもとに、声かけ誘導を根気強く行う事でトイレで排泄が出来る様に支援している。失敗してしまった時は、周りに分からない様に、声かけ誘導する事を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便観察により、状態や回数を把握し、便秘にならないよう配慮している。 食事内容も個々に対応できるものは変更している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決まっているが、希望があればその都度対応している。夏場のシャワー等。	浴室にはミストシャワーが設置してあり、身体も温まり、入浴を楽しめる様になっている。 入浴が好きでない利用者には、その人に合った声かけや、入浴剤を使用し、気分良く入浴できる様支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後はなるべくゆったりとした時間を過ごしてもらい、個々の状態に合わせて入眠へつなげるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理ファイルを作り、全職員が把握できるようにしている。担当責任者を置くことで、状況を確認し医療機関との円滑な連携につなげている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技を発揮できる環境を整え、活動できるようにしている。リクレーションやあるいは仕事として雑巾縫いなどの裁縫や、草引きなども行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	積極的に散歩や近所の商店へ出かけ、近所の方々との交流が持てるように取り組んでいる。	天気の良い日には近くの公園に行き、近所の人との交流を図っている。季節によって、ドライブに行く場所を決め、職員が下見に行く事で、安心して外出し外食も楽しめる様支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことへの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理においては、認知度により難しい場合もあるが、可能な限り買い物時の支払い等自分で行ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎや、切手などの買い物やポストへ出すお手伝いをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さまざまな活動ができるよう、用途に応じて場所を使い分けできるようにしている。植物や絵画の配置や、昔風の家具など心安らぐ物を設置している。	季節感ある手作りの作品が飾っており、利用者が皆でそこに居たいと思う、安心してくつろげる場所になっている。窓が広く、窓から見える土手に咲く桜を楽しんだり、バルコニーに出て季節を感じながら、お茶を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	家具やソファの配置を工夫し、気の合ったもの同士過ごせるようにも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	居室でも居心地良く過ごせるよう、自宅から愛用品をもっってきてもらっている。また、家族の写真を飾ったり、製作品を飾ったりしている。	入居時に自宅から持ち込んだ馴染みの家具を、家族と利用者で配置し、居心地良い部屋となっている。干してある靴下を利用者自身で取り込む際、他の人の物と間違えない様、それぞれの靴下にフェルトで目じるしを付け、職員と一緒に整理整頓を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーは勿論のこと、トイレの表示や居室入口のマスコット等、自分で行動できるよう配慮している。		